

1. 研究主題 **新聞等の活用に関する一考察**

～生徒の興味・関心を高めるきっかけづくりとしての活用法～

2. 主題設定の理由

本校は、働きながら学ぶ定時制普通科の高等学校であり、夜間部と昼間部がおかれている。年々入学する生徒は減少してきており、夜間・昼間部合わせても全校生徒が90名(平成16年5月1日現在)と小規模の学校である。近年は不登校経験者、全日制中退者、過年度卒業者など、いろいろな生徒が入学してくるようになった。生徒も10代～70代と、幅があり、本校は、まさしく生涯学習の場としての学校に変容しつつある。

それにともない、生徒の学習に対する目的意識も多様化しており、学習意欲もかなり幅がある。そのため、本校では、より学習内容が柔軟で、活動的な学習を多く取り入れた、学校独自の学校設定科目を数多く設け、生徒の多様化した学習の目的に対応していこうとしている。

新学習指導要領公民科の目標には、「主体的に考察させ」という文言が入っており、生徒が、自ら課題を見つけ、自ら学び、解決する資質や能力を重視している。その「主体的に考察」する学習を支えるものとして、生徒の学習に対する興味・関心を高めることが重要になる。また、新聞の活用は、生徒が積極的に問題発見や、課題解決に関わっていけるところが特徴であり、「主体的に考察」する学習とも関わる部分である。

このように、生徒の実態や新学習指導要領などから、生徒の学習に対する、興味・関心を高めるためにはどうすればよいのかを考え、本研究の主題を設定した。

3. 研究の目的

高等学校公民科現代社会の科目において、より

生徒の興味・関心を高めるために、新聞を活用した授業を通し、新聞等の活用の有効性を考察していくことを目的とする。

4. 研究の方法

本研究では、新聞活用により、生徒の関心・意欲・態度がどう変化していったかを把握するものである。具体的に把握するものとして、新聞活用の前・後や新聞活用の有無で、連想される記述の数等の変化を分析する。新聞記事などをみての感想・意見・考えを参考にする。

授業実践前・後の生徒へのアンケートや、新聞活用を実施した後に、ふり返りを記入させることで把握する。この～の変化を分析することにより、本研究では生徒の興味・関心・意欲を考察した。詳しくは以下の通りである。

(1) 新聞活用の特性と有効性の考察

情報を得る手段としては、多様なものがある。その中で新聞の特性と有効性を考える。

(2) 授業実践前・後の生徒のアンケート分析

授業実践の前(7月)・後(12月)で、新聞活用の授業に関するアンケートをとり、生徒の興味・関心・意欲の変容を分析する。

(3) 新聞活用前・後における連想記述分析

単元の重要語句に関係して、連想した記述を、新聞活用の前・後で比較・分析し、新聞活用した授業の有効性を考える。

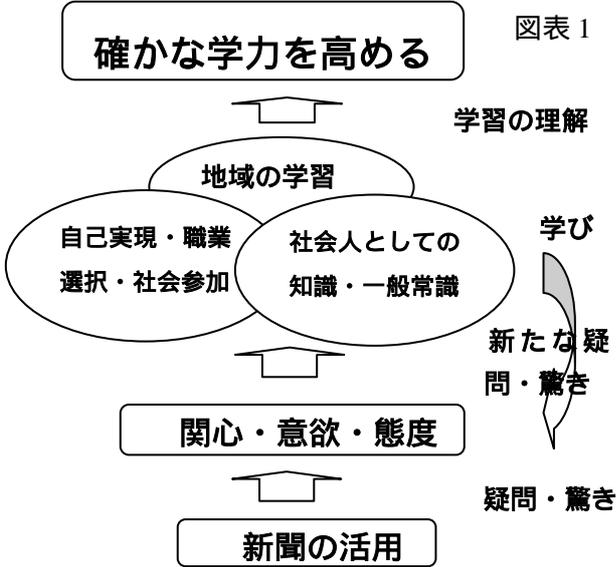
(4) 新聞活用有無における連想記述分析

新聞活用した小单元と、活用しなかった小单元とで、重要語句に関係して、連想した記述について、違いを比較・分析する。

(5) 新聞活用後におけるワークシート分析

授業実践の中で、新聞活用した授業の後、ワークシートの記述から、生徒の関心・意欲を分析する。

5. 研究での学習の流れ



新聞活用による、生徒の関心・意欲・態度に視点を当てた本研究において、生徒の学習の流れは、図表 1 の ~ の通りである。

単元の学習内容に関する新聞を、生徒に活用する。

新聞を活用することにより、単元の学習内容に関して、生徒の中に疑問・驚きなどが起こる。

単元の学習内容に関して、生徒の関心・意欲・態度が、より高まる。

単元の学習内容に関する、新聞活用で学習することにより、社会人としての知識、自己実現、地域を知る学習ができる。

単元の学習内容に関して、新聞活用で学習したことにより、新たな疑問・驚きが起こる。

新たな疑問・驚きを、自ら学習し解決することで、理解がより深まる。

確かな学力を高める

6. 研究の分析と結果

授業実践は、石川県立加賀聖城高等学校昼間部 2 年次 (16 名) を対象に、単元「国際社会におけるルール」で行った。

(1)新聞活用の特性と有効性の考察

ア 新聞活用による新聞の特性

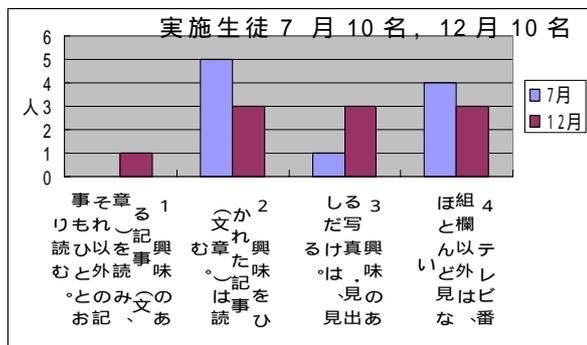
- ・新聞には記録性・保存性がある
- ・情報について、新聞は能動的にとらえる。

イ 新聞活用の有効性

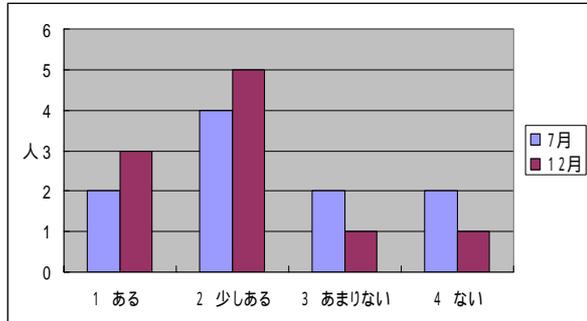
- ・情報の加工も手軽にできる。
- ・個々の生徒の調べたい課題にも対応できる。
- ・地域の情報が豊富にある。
- ・新聞活用は、自ら課題を見つけて、自ら解決していく学習を育みやすい学習ができる。

(2)授業実践前・後の生徒のアンケート分析

Q：新聞をどう読んでいますか。図表 2



Q：時事問題に興味・関心がありますか。



図表 2 からの分析

新聞の読み方は、興味のある写真・見出しは見るという生徒が増え、全体的に興味のある生徒が増加している。

時事問題に興味・関心のある生徒が増えた。興味・関心のなかった生徒も少しずつ興味をもちはじめている。

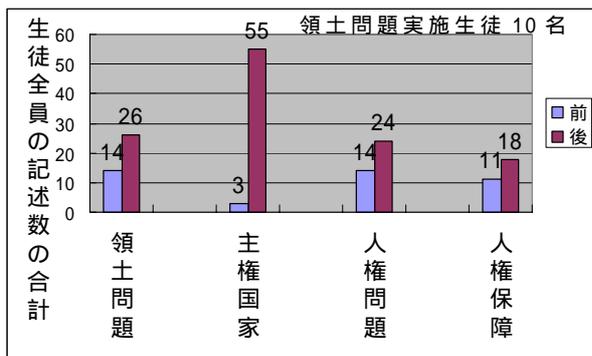
(3)新聞活用前・後における連想記述分析

単元中の重要語句について、関連する新聞記事を活用し、活用する前・後で連想した記述を分析した。

連想記述分析した場面は、重要語句を学習する、本時の導入の部分と、重要語句に関連する新聞を活用した後である。(図表 3、連想記述分析参照)

単元の中で、連想記述分析を実施した重要語句は、図表 3 の 4 つである。記述数変化の結果は図表 3 の通りである。

【新聞活用による記述数の変化】図表 3



重要語句の中の一つ、領土問題を例にあげ、同一生徒による新聞活用前・後の記述の変化をみしてみる。

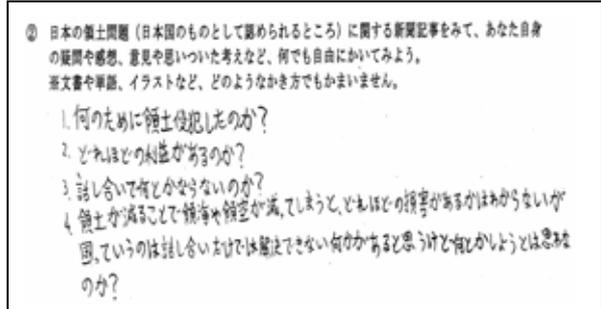


(活用した新聞)



平成 16 年 11 月 11 日
北國新聞朝刊

東奥日報社提供

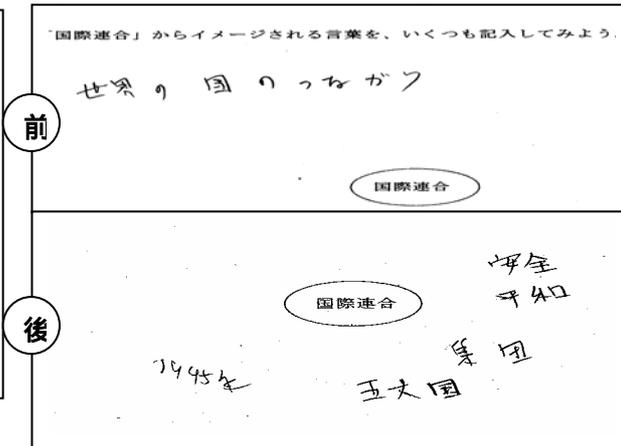


図表 3 も参考に生徒全員の結果から領土問題について、連想した記述を考察してみた。新聞活用後の記述数は、10 名中 9 名が増加、1 名が同数であった。また、記述の表現方法は、10 名中 8 名が文章、2 名が短文であった。活用前の短文 2 名、単語 2 名、表現なし 6 名と比較しても、表現方法が文章で表せるように、変化した。また、記述の内容も、「何のため?」「気になる」「思う」とか、生徒自らの思い、感想、疑問などが入っており、ここからも、領土問題に対しての、関心・意欲を持っていることがわかる。他の主権国家、人権問題、人権保障についても、領土問題と同様の傾向がみられ、とくに、主権国家では、中国原潜問題や沖ノ鳥島の問題など、授業実践の頃に、起きた出来事を活用したため、生徒の関心・意欲もより高かった。

(4)新聞活用有無における連想記述分析

新聞活用した領土問題と、新聞活用しなかった国際連合とで、重要語句に関して、連想した記述の分析を行い、同一生徒による記述の違いを、比較・分析した。(図表 4)活用新聞は上記新聞参照。

(国際連合：新聞活用なし) 図表 4



(領土問題：新聞活用あり)

「領土問題」からイメージされる言葉を、いくつも記入してみよう。

前

国境 200海里

領土問題

後

領土問題は思えばいかに
 入らざるで思った
 国境の領土もかたを字、こゝろは
 上、いかに思った。

図表4も参考に、生徒全員の連想した記述を考察してみた。

新聞活用した領土問題の考察は、前記(3)で述べた通り、記述の増加や記述の表現、記述の内容から考察して、生徒の関心・意欲が高まったといえる。

新聞活用しない国際連合の考察において、連想記述分析を実施した場面は、授業において国際連合を説明する前と、国際連合について、説明や板書をした後である。

結果を、領土問題と比較して、記述の増加率では、あまり変化がなかったが、記述の表現や記述の内容に大きく違いが出た。活用しない国際連合では、前・後とも、記述の表現は単語のままであり、記述の内容も、自分の言葉や意見の入った記述はみられなかった。

両者を比較した結果、新聞活用をした授業は、記述の表現や記述の内容の深まりから、生徒の関心・意欲がより高まったといえる。

(5)新聞活用後におけるワークシート分析

単元の中で、新たに起こる関心・意欲・態度を把握する箇所は4カ所ある。図表6は、その中の一つ、日本を取り巻く排他的経済水域について考える設問でのワークシートである。生徒は設問に関する新聞(図表5)を、資料として学習し、感想、意見などを自由に書いた。排他的経済水域を例に考察した。

右：平成16年5月10日
 北國新聞朝刊

左：平成16年10月1日
 北國新聞朝刊



【新聞活用後におけるワークシート分析】図表6

◎ ◎の白地図をみて、日本とまわりの国々との、排他的経済水域 (EEZ) の境界 (黄点) の関心について、あなたの疑問や感想、意見や思いついた考えなど、何でも自由にかいてみよう。漢字や単語、イラストなど、どのような書き方でもかまいません。

Aさん

海は領土もどき、こゝろはこゝろに
 して領土もどきか?

Bさん

計算してどうも、ちがうように境界を分ける。
 日本、ロシア、中国、韓国、海峽山脈があるとして、その海峽山脈のある位置で決める

Cさん

話のあらい変えてはいい、
 るいし境界線はどきまのわが。

新聞活用した結果、図表6の3人も含め、どの生徒も、自らの考え、感想、疑問、解決策を書いており、学習に対して関心・意欲が高まっているといえる。

7. 結論と課題

(1) 結論

生徒の学習に対する興味・関心・意欲を高めるためには、単元の内容に応じた新聞を、資料として活用することが有効であった。

新聞を活用することで単元の学習内容が深まり、ワークシートの語句にも広がりが見られた。

新聞活用により、新たな興味・関心・意欲も起こりやすく、また、自分の言葉で表現できていた。

(2) 課題

授業内容にあった、タイムリーな新聞活用を心がけていきたい。

新聞活用により、学ぶ意欲を高めることができた。そこから、学力定着へと、つなげていきたい。